

資産の総合評価の流れと評価結果の活用について

- ・資産の総合評価では、データ評価・総合評価の2段階で対象施設を評価します。
- ・評価結果は、公表するとともに、評価結果に基づく取り組みを実施します。また、評価の中で見えた課題についても、検討を行います。

1 データ評価

定量的なデータから施設を評価。指標ごとに
ベンチマークを設定し、課題あり施設を抽出。

2 総合評価

データ評価で課題ありとなった施設に対し、下記4項目について分析・検討。
その結果をもとに、総合的な評価を行う。

3 評価結果の活用

評価結果を公表。
評価結果に基づく取り組みを実施。

抽出

評価指標	ベンチマーク(H25年度の例)
建物性能	・残耐用年数15年以下 ・耐震性能不足
利用度	・稼働率又は面積当たり利用者数が5段階評価で2以下 (グループ内相対評価) ・稼働率が40%未満
運営コスト	・面積当たり運営コストが5段階評価で2以下 (グループ内相対評価)

課題あり施設を分析・検討

分析・検討

■ データ評価結果についての考察

データ評価結果について考察。

■ 利用実績の検証と現用途の需要見通しの検討

利用状況を中心に詳細な分析を行う。
また、利用者層や人口動態等から、将来の需要見通しについて検討。

■ 再配置パターンの検討

周辺に位置する公共施設について、施設機能や利用状況などから再配置パターンを検討。

■ 資産の活用ポテンシャルの検討

資産の立地特性を踏まえ、公共・民間それぞれの活用ポテンシャルを検討。

各分析結果から総合的に評価

評価

(1) 評価結果

分析・検討結果をもとに、総合的な評価を行う。

対象	評価結果	方向性
次年度に見直しに着手する施設	見直し	①集約化 ②複合化 ③民間施設の活用 ④類似機能の統合 ⑤実施主体の変更 ⑥PPPの推進 ⑦サービス提供方法の変更 ⑧貸付・売却等 ⑨その他
現時点では利用を継続するものの、将来的には見直しすべき施設	継続利用	⑩当面継続
周辺施設の状況、利用状況、規模、立地等から将来に亘り利用すべき施設	継続利用	⑪継続(計画的保全対象)

(2) 課題 (対象施設又は施設グループ全体)

評価結果には直結しないが、分析・検討を行う中で見えた、施設利用の効率性向上のために検討すべき
主にソフト面の課題について示す。 【課題の例:受益者負担の適正化】

評価結果の活用

取り組み

(1) 評価結果

・評価結果は、市ホームページ等で公表。
・評価結果に基づく取り組みを実施。

見直しとなった施設

利用調整の実施(施設所管課・資産経営課連携)

継続利用(当面継続)となった施設

利用状況等に留意しながら継続。今後、大規模改修や建替え等の段階で見直しを検討。

継続利用(計画的保全対象)となった施設

利用を継続。重要性、緊急性から保全の優先度を判断。計画的な保全に努める。

・評価結果や今後の利用状況等は、資産データベースに継続的に蓄積し、見直しの検討において活用。

(2) 課題

・主にソフト面の課題であることから、事務事業評価等を活用し、施設所管課を中心に検討を行う。